

第6回 第3次丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2023年10月6日（金）

13:35～15:35

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

【出席者委員】（敬称略）

竹内 真子、森島 斉、細見 博美、植木 光敏、大野 亮祐、坂本 康子、足立 はるみ、
柳瀬 長明、杉岡 秀紀、山口 洋子、池畑 美帆（11名）

【欠席者委員】（敬称略）

上羽 裕樹、岸本 好量、金川 方子、寺内 清、實吉 直（5名）

【事務局】

副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、多田政策係長、足立主事、前川主査
足立大樹主査

配布資料：【資料1】 第3次丹波市総合計画の将来像案の決定について

【資料2-1】 第3次丹波市総合計画の施策体系案について

【資料2-2】 第3次丹波市総合計画の施策体系案について（補助資料）

【資料3】 第3次丹波市総合計画のまちづくりの目標案の検討について

1. 開 会

2. あいさつ

【副市長】 今回は、第6回の審議会となり、今月末には第7回を予定している。

議会には、総合計画策定の進捗状況を報告させてもらっている。9月議会では第2次総合計画の評価・検証を報告した。その際の意見では、個別計画の内容として議論するような、詳細なところまで踏み込んだ意見も多かった。総合計画では、まちづくりの大きな部分を描いていくことになる。これから計画書を作成するにあたって、総合計画がどのような成り立ちをしているかは、将来像を幹として、8のまちづくりの目標という枝があり、そこに葉っぱがついていくというように、一本の木に例えるなど、見やすい、理解しやすいものとして整理できるよう、工夫が必要と考えている。本日、皆さんには、木の幹や枝の部分について議論いただきたい。

【会 長】 丹波市で使ってもらえる計画となることが大切。そのためにも内容に魂を込めていただきたい。分厚くなってもだめだし、分かりにくくてもだめ。他人行儀な内容でもだめ。委員の皆さんには磨きをかけていただきたい。本日は将来像を決めていく。また、施策体系やまちづくりの目標について、枠組みの部分をしっかり話し合っ、各論に入っていくきたい。

3. 協議事項

第3次丹波市総合計画の将来像案について【資料1】

・・・会長説明。

【会長】 これまで3回かけて将来像の協議を進めてきた。向こう10年間使うものになるので、時間をかけて当然だと考えている。市民の感覚が一番大事であり、共感ができなければ意味がない。

まず、過去の整理から、1点目として、オリジナリティ。他市や過去の丹波市の将来像との違いが分かるということ。2点目として、分かりやすいこと。毎日、万博の仕事をしている中で「いのち輝く未来社会のデザイン」というのがスローガンとなっているがギリギリ覚えられる長さだと思っている。口にそらんじて言えることが大切。3点目は、自分たちの・私たちの・みんなの将来像として、未来感を感じられるかが重要。この3点で協議を進めてもらいたいと、この3カ月程度、時間をかけて協議を進めた。

前回会議では、Aグループでは「まなび 輝く 丹（まごころ）の里 丹波市～ときめく未来へ～」と、Bグループでは「まなび ときめき 輝く 丹（まごころ）の里～まちの未来にあなたとプラス1～」という案を出してもらい、それぞれのメリット・デメリットを検討して、「まなび ときめく 丹（まごころ）の里～みんなが輝く未来へ～」を最終提案として仮置きしたものを皆さんにブラッシュアップしてもらいたい。

例えば「あなたと」という表現が良いのか、「みんなが」という表現をした方が良いのかなど、どのようにしたら皆さんの心にメッセージが響くのか、確認の視点を踏まえて、将来像について意見をいただきたい。

資料中、将来像に込める想いもまとめてあるので、これらの想いがしっかり込められているか、本日は一括審議で諮っていく。

【副会長】 丹波市のオリジナリティが欠けているのではないかと考えている。みんなが10年先を見据え、こういう丹波市をつくっていききたいというイメージを持てるものを思っていたが、「まなび」や「ときめき」など、よく聞くフレーズでまとまっている気がする。「丹（まごころ）の里」は、オリジナリティはあるが、他市の人が見て理解ができない。ただ、丹波市の人がかつたら良いので、その点では大丈夫だと思っている。第2次丹波市総合計画の評価・検証における総評で、令和4年度に実施した市民アンケートの結果では、概ね60%の市民が丹波市の住みやすさについての質問に「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答されていて、将来像が実現されていると思うかの質問には、「よくわからない」と回答した人が最も多く、51.7%を占めているとのことだったので、何となく住んでみたら住みやすいまちという状況なのかなと受け取った。市民の満足度に加え、幸福度を測る仕組みを取り入れていくことが必要との総括がされているが、Aグループ、Bグループの協議が、それに向けて議論をしてきたかと疑問がある。

【会長】 確かにありきたりのワードが並んでいるかもしれない。研究者の立場から言うと、総合計画で「まなび」から入る将来像は少ないと思う。「ときめく」も行政からは絶対出てこないワードである。市民発で若いキーワードだなという印象で、大胆に入ったなと思っ

ている。その点では、かなりオリジナリティはあるのではないか。

また、幸福度に関して話があったが、全世界で幸福度が指標化されていくウェルビーイングというもので、先読みして、「みんなが幸福に」など、将来像に幸福感を足していくことは必要かもしれない。副会長の言われたとおり、その議論は、今までできていなかった。

【委員】 良くまとまっていると思う。「まなび」が目立っているのも良いと思う。

次のキーワードとして、会長・副会長が言われたとおり、幸せの視点は入った方が良い。

【会長】 例えば、「みんなが幸せに輝く」なのか、「みんなが幸せで輝く」なのかでも印象が違う。

【委員】 「幸せ」を入れるとすれば、「みんなが幸せに」の方がしっくりくる。

【委員】 毎回審議会に出席していて、これまでの意見が綺麗にまとまっていると思うが、副会長が言われた、当たり前前の言葉が並んでいるということは心に刺さった。その中で、幸福感の視点などを入れていけたら良いかもしれない。

【会長】 全て日本語で、かつ平易な言葉でいくというのは、子どもが分かるというのが最大のポイントになる。小学生が書けるという視点も必要。いつも子どもを置き去りにして、行政計画ができてしまう。少し幼稚に見えてしまうというのがあるのかもしれないが、逆に挑戦的だなと感じている。

【委員】 それぞれの言葉が施策につながるようにつくらなければならないとすると、幸福の視点を入れて、どの施策につながるのかが気になる。

【会長】 幸せというのは、このまちに住んで良かった、住み続けたいというところ。あるいは、移住者の目線でこのまちに住んでみたいと思うか、関わってみたいと思うかというところだと思うので、特定の施策ではなく、総合的に関わってくる。

【事務局】 事務局も会長と同じ考えである。身体的・精神的・社会的にも満たされた状況であること、いわゆるウェルビーイングの視点は先進的に取り入れていきたい。幸福度は個人で違いがあるため、主観的なものも含まれてくる。包括的にまちづくりをしていく中で、皆さんが幸せだと感じてもらえることが大切だと思う。

【部長】 幸福度は、第2次総合計画の評価・検証や、また議会への説明をしていく中で、これからの指標として非常に大事なものと認識している。審議会や事務局、議会含めて共通言語となっていくと考えている。どのようにKPIとして取り入れていくかは、事務局として研究させてもらいたいと思う。住みやすい、住み続けたいと思ってもらえるまちづくりを進めるにあたり、「幸せ」という言葉を使っていたらいいなと思う。

【委員】 案を見て、今までの協議を踏まえて、綺麗にまとまっていると思う。幸福度を入れるのが良いかは判断しかねている。私自身、組織に40年ほど属してきた経験から、一番上に出てくるタイトルを検討したりするときは、かなり抽象的な言葉になってしまう。それを見た人がどう考えていくかというのが重要。最初に、「学習する」「勉強する」「まなぶ」というワードが大切になってくると意見させてもらって、それが頭に打ち出しされているので満足している。

【会長】 「まなび」が頭にある総合計画は、かなり珍しいのでオリジナリティのあるものに仕上がっていると思う。その点では、自信を持って良い。

【委員】 資料を見て、良くまとまっていると考えているので、反対はないが、幸福感を入れるかは、最終的に他の施策も見ながら検討していければと思う。いろいろな審議会等に出席しているが、行政計画というのは固いものが多い。非常にやわらかい表現で、子どもたちにも伝わるスローガンとして良いものになったと思う。

【会長】 それぞれに想いを聞き取りさせていただき、副会長からのご指摘もあって、「幸せ」という視点を入れていくことは重要なのではないかと感じた。一旦、将来像案として、「幸せ」の要素を入れさせてもらいたい。現段階では、サブタイトルを「みんなが幸せに輝く未来へ」として仮置きしたい。丹波市がウェルビーイングの社会を見越して、積極的に考えているというメッセージをより強化できる。デメリットとして、長くなるし、語呂がこれで本当に良いのかは多少自信がない。この先で、やっぱりシンプルにした方が良かったのではないかということだったら修正は効く。大きな方向性は、「まなび ときめく 丹(まごころ)の里～みんなが幸せに輝く未来へ～」として決定させてもらう。

【部長】 将来像が仮決定したので、若干の言葉の整理等も含めて、語呂が良いか、どこまでシンプルにできるかなど事務局検討していきたい。次の計画では、子どもたちにとって分かりやすいという視点が非常に重要であると思うので、その点も踏まえて策定を進めていきたい。

第3次丹波市総合計画の施策体系案について【資料2-1・2-2】

第3次丹波市総合計画のまちづくりの目標案について【資料3】

・・・事務局説明。

【会長】 行政に求められる視点として、市民の一生を支えていく施策の継続性が大事。資料の中では、26の施策が示されており、各課で対応されている。将来像との兼ね合いを見ながら、施策を分野ごとにまとめた8のまちづくりの目標について、本日は検討いただきたい。まちづくりの目標案として、例えば「快適な都市基盤をつくるまち」という文が示されているが、市民や子ども目線だと、「都市基盤」が何なのか伝わらない。このようなものは、表現を変えてもらいながら「～のまち」という定型文としてつくってもらいたい。

・・・ 2グループに分かれてまちづくりの目標について協議をした。

【A グループ】 一人ひとりが主体となる視点をもって考えた。こども政策は「こどもがワクワクするまち」とした。子どもが目の前にあるやりたいこと、学びたいことを楽しんでできるように取り組むことが大切と考え、子どもを主体とし、子どもがワクワクする心をもってもらいたいという想いを込めた。

活躍政策は「あなたの個性がつくるまち」とした。住民一人ひとりが住民自治・まちづくりをしていく、自分で自分らしさをつくっていくことが大切だと考え、「つくる」というフレーズを使った。一人ひとりが主役になって活躍するという視点から「あなたが主役のまち」という意見もでた。全てが一人でできてしまうスペシャリストである必要はなく、一人ひとりがちがう個性を活かし、互いに関りを持つことが必要ということから意見をまとめさせてもらった。

安全・安心政策は「笑顔で暮らせるまち」とした。笑顔で誰もが暮らせているというのが安心・安全を実現できている状況だと思う。第2次総合計画では「あいさつでつながるまち」というように、お互いの顔が分かり、信頼ができていく状況が安心・安全につながっているという視点はとても良いという意見が出た。

健康福祉政策は「幸せに生きるまち」とした。市民がどのように生きたら、健康福祉が達成されるのかと考えたときに、市民が幸せに生きることが出来れば良いという意見があり「幸せに生きる」「幸せをつくる」などのワードを検討した。

【B グループ】 産業政策は「活力が上がるまち」とした。個々が盛り上がるのではなく、個々の稼働力が上がってきたら、その盛り上がりをそれぞれの産業につなげていくことが大事との意見があった。

くらしの基盤政策は「快適に暮らせるまち」とした。案としてあがっている例文では、「都市基盤」という言葉が使われているが、市民にとっては意味を受け取りづらい。協議の中では、インフラが整っていないから企業が撤退した事例もあったという意見があったので、「快適に暮らせる」という視点だけでは、5年後にどのように暮らしていきたいかの想いとしては、不足している部分があるかもしれない。次回の協議で話し合いを進めていきたい。

環境政策は「自然と共生する環境にやさしいまち」とした。生物の多様性を守ったり、脱炭素やごみ処理では、市民が環境にやさしい行動をしていくということが大事だという意見があった。ただ、語呂が長い気もするので、もう少し変えていきたい。

行財政政策は「持続可能な効率的なまち」とした。健全や行財政の運営や経営という視点を盛り込んでいきたい。

【会 長】 どちらのグループもシンプルで、分かりやすいというポイントを頭において検討を進めていただいた。文字数など整理する必要があるが、一定のキーワードは出てきたと思う。次回に向けて事務局でも一旦意見を整理し、提案をしていただきたい。

さて、将来像について、ワークショップの間に事務局サイドで協議をしてもらったので説明をお願いしたい。

【課 長】 将来像のところで、「幸せ」「ウェルビーイング」について意見があった。第3次総合計画では、幸福度を測る指標を入れていきたいと思っている。それを鑑み「幸せ」というワードが強調されたサブタイトルになれば良いと考えた。「みんなが幸せに輝く未来へ」としていたサブタイトルを「幸せ輝く、みんなの未来へ」として仮置きさせてもらいたく、提案する。

【会 長】 「幸せ」を頭に持っていくことで、ワードを強調していくという提案をもらった。これに対して、委員からの意見はないようなので、この案で仮置きさせていただく。将来像は、全体調整の中で今後も多少の修正はあるかと思う。本日議論したまちづくりの目標は、次回も引き続き話し合いをさせてもらいたい。

【副会長】 審議会の回を追って、自分のイメージが具体的にになっていくにつれ、いろんな意見が出てきたのではないかと感じている。今日のイメージを少し頭の中に残して、単なる言葉遊びにならずに、出てきたキーワードが丹波市の施策にきっちりと落とし込めて、住民の暮らしが成り立つ、そのような総合計画になればと思う。次回も良い検討を重ねていきたい。

4. その他

第7回丹波市総合計画審議会の開催

日時：令和5年10月31日（火） 午前10時00分から

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

5. 閉会

以上